

高槻市市民公益活動 サポートセンターニュース

e-mail:koueki-suport1504@aurora.ocn.ne.jp

http://www.takatsuki kouekisuport.com/

発行 2007年(平成19)1月15日
高槻市市民公益活動サポートセンター
住所 〒569-0056 高槻市城南町3-1-1
西大冠小学校内
電話 072-674-3400
Fax 072-674-3401

高槻市協働活性化モデル事業

18年度協働活性化モデル事業は5事業が採択されましたが、そのうち今後予定されている2事業についてお知らせします。なお「赤とんぼ/フレンズパーク建設を通して地域の相互扶助事業力の育成」「NPO法人アダージョ/アダージョ英語DEキャンプ!!2006」「ボランティアグループ阿武野/阿武野地区大型不法投棄ゴミの回収事業」の3事業は終了または、継続中です。

交流センター保育室・相談室の活用、 及び保育つき子育て支援

NPO法人SEAN

この事業は、高槻市立男女共同参画センターとの協働ですめられています。保育つき子育て講座と情報ライブラリーを開催することで、施設の有効利用を図りながら、子育て中の親がかかえているさまざまな問題に対応する電話相談員の養成と相談室を利用した電話相談の実施を目指すものです。

かつて「子ども」だったあなたのための

子育て連続講座

「子育て」「私育て」情報ライブラリー

の2講座は昨年度中にすでに終了しています。

この後の予定は次のとおりです。

子育てママのグチグチ電話相談

日程 2/2・9・16・23の各金曜日

/7・14・21・28の各水曜日

時間 いずれも9時~18時

電話 072-685-3748

どなたでもお気軽にお電話ください。相談は無料です。

.....
詳しいお問合せ：NPO法人SEAN

Tel.Fax. 072-684-8584

おはなし・読書 ボランティア講座

「子どもの文化」ネットワーク

7年間続いた「図書館市民まつり」が幕を閉じた昨年、いままでいっしょに活動してきた団体と新しく加わった団体の計10団体が、新たに「子どもの文化」ネットワークという団体を立ち上げました。

今回の協働事業では、読書ボランティア活動に対する理解を深め、子ども・ことば・文化の現状について学び、実技研修もします。対象は、幼稚園や小学校などでおはなしの語りや読書活動に関わっている人です。

第1回 1/22 ・お話の世界から、ボランティアを...

講師 鏑 栄美子(大阪ボラ協)

・おはなしの語りの実際

講師 辻 瑠子・村上昭一

(なにわ語り部の会)

第2回 2/11 ・ことばの楽しさ、ことばのこわさ

講師 清水 真砂子(「ゲド戦記」訳者)

第3回 2/26 ・生きる楽しさ、生きる喜び、生きる力を伝える読書活動を!

講師 栗村 節子(ストーリーテラー)

・ワークショップ

番外編 3/21 ・絵本フェスティバル

.....
詳しいお問合せ：「子どもの文化」ネットワーク事務局

三島子ども文化ステーション気付 Tel.Fax 072-671-2211

= 目 次 =

1面 18年度高槻市協働活性化モデル事業経過
3面 地域環境保全活動

2面 第2回NPO協働フェスタ・各種講座開催
4面 登録団体紹介

ジャンル別で工夫こらして展示

11 / 11

盛会だった第2回たかつき NPO 協働フェスタ

サポートセンターがネットワーク・行政とともに主催団体として参画した「第2回たかつき NPO フェスタ」は、心配していたとおりの小雨の天気になってしまいましたが、それでも350人ほどの参加者がありました。

今回は参加団体が38と増えた中で、会場の広さから、展示方法の工夫が必要となりました。参加者が見やすくわかりやすいようにとの配慮も兼ねて、活動ジャンルでブースに分かれて展示しました。それぞれのブースごとに、何度も会議を重ね当日を迎えました。

(子どもブース) 子どもの現状を中心に、アプローチの仕方が異なる団体同士が、お互いを生かす工夫をしました。

(福祉ブース) 配食・街かどデイ・高齢者・人権・障害者など分野はさまざま。でも目指す峰はひとつ。体験コーナーもありました。

(環境ブース) 身近な問題から、地球規模の課題まで、一人ひとりが組みまなければならないことを、わかりやすく展示しました。

(文化・交流ブース) ひとつのテーマでは括れない活動の団体が集まり、ユニークな展示やウェブラジオ放送をしました。

(協働ブース) 行政との協働事業を展開している「協働活性化モデル」「つどいの広場事業」「コミュニティビジネス(CB)」の3事業がその概要を披露しました。

「子ども工作教室」子どもだけではなく、親子連れの参加者も。木や自然の物を使って小物を作りました。



記念イベントは桂小春園治さんの「NPO 落語」。自身も最近 NPO 法人を立ち上げたとあって、話の中に NPO がわかりやすく織り込まれました。



写真やカット・現物を取り混ぜて展示。一般参加者への説明もていねいに

会計講座 (10/30、11/13・27、12/11・18)

終了

サポートセンターでは、NPO 団体の会計支援をしている「パルケ高槻」の協力を得て、昨年から実務的な会計講座を開催しています。今回は2団体と3人の個人参加がありました。

この講座では基本的な NPO 会計の処理を学びながら、
・償却費とは・法定福利費とは・有償ボランティアとは
・固定資産の管理・NPO で収益が出た場合は...

など、参加団体から実務上の質問が出され、みんなで議論して正しい会計処理ができるようにしています。

「会計」は、資金の面から市民活動団体の健康状態を示してくれますので正しく事務を行い、先手先手と対策をとり活動が長く続くお手伝いができればと思います。

まちづくり塾 (11/18・19・26、12/9)

団塊の世代を中心に社会参加の機会を作る「まちづくり塾」今回は「緑のまちづくり活動への入門講座」。



申込者は15名。テーマから連想されてか女性の参加が多くありました。川添公園での実習も含んだ4回の講座で緑のまちづくりや園芸福祉について学びました。

これから

「ちらしづくり」講座

みんなに手にとってみてもらえるような
チラシをつくりたい!

そんな思いを講座にしました。
実践にたっぷり時間をとっています。
手書き・パソコン、どちらにも対応します。
たくさんのご参加をお待ちしています。

日時・会場 第1回 1/31(水)13:30~15:30
交流センター3F 第3会議室
第2回 2/7(水)13:30~15:30
交流センター4F 第4会議室

講師 日本機関紙協会大阪府本部
坂手 崇保氏

資料代 2000円(2回分の講座経費として)
定員 20名(先着順・一団体何名でも可)
持ち物 筆記用具

*パソコンで作りたい方は、ご自分のノートパソコンをお持ちください。

主催・申込み先・お問い合わせ
サポートセンター Tel.Fax 674-3400

シリーズ市民公益活動の現場から・第5回 「地域環境保全活動」

各地で不法投棄されるゴミが問題になっていますが、高槻市でも、山間部や名神高速沿いの道路わきに、産業廃棄物と思われるものや大型ゴミから生ゴミにいたるまで、たくさんのゴミが棄てられています。これらのゴミは、景観上好ましくないだけでなく、長期間風雨に曝されるうちに有害な物質が溶出し、やがて河川の水や農業用水まで汚染する場合があります。

このような問題に対し、17年度および18年度に「協働活性化モデル事業」として採択され、不法投棄ゴミの回収、および投棄防止のための防護柵の設置やパトロールなどの活動が、地元住民からなるボランティアグループと行政との協働事業ですすめられています。原地区、榎田地区、阿武野地区での取り組みからご紹介します。



谷からゴミを拾い上げる

ゴミの回収作業は、地域のボランティアによって行なわれています。冷蔵庫・テレビ・ステレオ・パソコン・タイヤ・電池・消火器、家具・布団・毛布・衣類、灯油のポリ容器やペンキ缶、洗面器や調理器具・ペットボトル、空き缶、空き瓶、ペットのフン、瓦やブロックまで。「こんなものまで…」と驚くようなものが捨てられています。

これらのゴミは、林道わきの斜面など目に付きにくい場所に投げ捨てられており、埋もれていたりしているため、回収はすべて手作業になります。足場の悪い場所での作業は、安全確保に気がつかれます。

谷あいから回収されたゴミ ……………

1回でおおよそ400～700kg、多い時には1t以上のゴミを回収します。地元の人たちによって回収・分別されたゴミは、市が収集車を出して運搬・処分しています。



間伐材を利用した防護柵

不法投棄を防止するための活動として、啓発看板を設置したり、防護ロープやネットを張ったりしています。榎田地区では、地元の間伐材を利用した防護柵を設置しています。また、

原地区・榎田地区では、大阪府警の協力を得るとともに、パトロール隊を結成して監視や投棄ゴミの早期発見にも努めており、原地区では警察の地道な捜査により過去6件の不法投棄犯が検挙されています。

これから… 心ない人々によって投棄されたゴミですが、回収にかかる費用の多くは、ボランティアグループが負担しています。また、地主さんが防護柵の設置費用を負担することもあります。

高槻の美しい自然と地域の環境を守るために、住民と行政が協力していきたいものです。

投棄バイクのナンバープレートを確認…



原地区環境保全会

悪質な投棄ゴミから、原地区の環境と農業を守るために、地元の有志約100名による自主的な組織として、平成16年より活動してきました。年間15回の大型ゴミの回収の他、不法投棄防止に向けた啓発活動を実施しています。

榎田地区環境保全会

連合自治会の会員を中心に、不法投棄パトロールや地域防犯活動などに取り組んできましたが、平成17年度、地域の賛同者87名で榎田地区環境保全会が発足。週1回のパトロールを実施し、その都度随時、防護柵の設置、大型投棄ゴミの回収などを行っています。

ボランティアグループ・阿武野

阿武野地区有志により、平成6年、地域に貢献するボランティアグループとして発足し、多彩な活動をしてきました。平成18年度は、通常ゴミ回収の他に、月1回、山間部の不法投棄された大型ゴミを回収しています。

登録団体 活動の広場



「CAPみしま・大阪」

CAPとは、Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の略。子どもへのあらゆる暴力から、子ども自身が、自分の身を守る「暴力防止教育」です。

☆ CAPは、1978年アメリカで生まれ1985年日本で紹介されました。現在、ライセンスを取得したスペシャリストによって約150のCAPプロジェクトが全国各地で活動中です。

☆ CAPプログラム

子どもを無力な存在と見るのではなく、子どもの本来持っている力を引き出し、問題の解決力を育てるプログラムを、ワークショップを通して伝えています。



☆ ワークショップ

保育所・幼稚園・小、中学校で子どもワークショップ実施

誰もが「安心と自信をもって自由に生きていく」権利があること、それらの権利が奪われそうになったときには、「いや!」とって「にげる」こと、代わりに「そうだん」することの大切さを、ディスカッションやロールプレイ(寸劇)で伝えています。これまでの9年間に1442回のワークショップの実施と、のべ5万人以上の方にCAPを届けてきました。

連絡先:高槻北郵便局 私書箱44号 695-3611

「まちかど探検隊」

~バリアフリーのまちづくりをめざして~

「会社」のためだけでなく「社会」のため(ちよっと大げさかも)、自分たちの技術や知識を生かそうと「まちかど探検隊」として歩道のバリアフリー調査や歩行空間の提案を行ってきました。ここ3年程は環境市民会議の「人にやさしい交通」グループや、景観検討ワークショップの仲間たちと活動し、歩きやすい歩行空間、景観のあり方等の問題について取り組んでいます。快適な歩行空間の整備、歩道のあり方や使い方、環境にやさしい自転車や、バスなどの公共交通、又、町並みなどの景観について関心のある方、活動に参加しませんか。

11月末にはドイツ視察を行う予定です。



◀ 歩道のバリアフリー調査実施 (H15.9)

連絡先: machikadotanken@u01.gate01.com

NPO法人 ハドル ——土砂災害防止のための活動——

「天災は忘れた頃にやってくる。備えあれば憂いなし」子どもの頃、親や先生に教わり、頭の隅に記憶されていますが、近年、甚大な自然災害が発生していない大阪府において、いつ起こるか分からない自然災害、特に水災害に対する防災意識を高めていくのは、決して容易ではありません。そこで私たちは、従来の行政から住民への一方通行ではなく、新たな表現・伝達手法によって住民にわかりやすく防災情報を伝えることを目的に「洪水・土砂災害防止・減災活動に取り組む「NPO法人ハドル」を設立しました。「ハドル」とはアメリカンフットボールの用語で、「円陣をくむ」という意味があります。



いつ起こるか分からない災害に対して、危機感をあおる必要はありません。たかつきNPOフェスタ、井戸端会議等に積極的に参加し、団体間の交流を深め、子どもも大人も日頃から、役に立つ防災情報を楽しみながら自然に身につける。わたしたちはそんな活動を続けていきます。 連絡先: 06-6464-1270 (大阪NPOプラザ)

◆平成19年1月30日(火)には檉田小学校において防災出前講座を行う予定です。

編集後記 今回から新たに、女性スタッフの田中が編集に関わることになりました。スタッフが増えることでより新鮮な目で活動を捉え、紙面に反映できればと思います。今年もよろしくお願ひいたします。